

「つなげよう、支えよう森里川海」推進志民会議 全国大会 IN 高野山 2015

【開催趣旨】

昨年11月3日、第7回ローカルサミット IN 高野山（高野山大学共催）の最終日、事務総長のまとめとして、こう申し上げた。「生きとし生けるものとの暮らしを取り戻すための国民運動を展開していかないと、我々に残されている時間的な猶予は少ないのではないか。その意味では、鎮守の森、鎮守の海を守るべく、森里川海連環の観点から新たなつながりを再構築すべく幅広く志金を集め、それを活かす方途を探れないものでしょうか。その具体的な方法論も含め幅広く議論すべきタイミングではないでしょうか。また、未来を創る子供たちに、豊かな海辺や森の自然に触れ、五感を研ぎ澄ませることの出来る時間をもっと持てるような仕組みが出来ないものでしょうか。そして、こうした生きとし生けるものと共に暮らす心持ちを我々が常に再確認し、全国各地の様々な動きを相互に学び合う場を、この高野山において、ローカルサミットとは別の形で、例えば年に一回高野山会議のような形で開催できないものでしょうか。」と。

この宣言を受ける形で、昨年12月から、環境省が「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトを立ち上げ、勉強会や各種シンポジウム等を通じて、学識経験者や全国各地の首長等を巻き込んだ国民運動展開を図ってきている。

我々場所文化フォーラムとしても、環境省と連携しつつ、年初来、全国の志民ベースに呼びかけて、全国各地に「つなげよう、支えよう森里川海」推進志民会議を立ち上げ、国民運動を展開して、これまで、全国各地で、推進志民会議を開催してきた。また、環境省でも、「中間とりまとめ」を鋭意作成中である。

こうした国民運動の展開を、更に大きなうねりとすると共に、継続的な活動として皆で方向性と方針等を確認する初めての全国大会を7月11-12日に、森里川海のとつながりのベースとなる生きとし生けるものと共に暮らす日本人の自然観の起点となる、高野山で開催することとする。高野山の志民との連携の形も取って、この全国大会から、全国、世界に強いメッセージを発信していきたい。

【開催概要】

- ・主催・共催：(社) 場所文化フォーラム、(社) リバースプロジェクト、
NPO 法人ものづくり生命文明機構、(株)デイスカバージャパン、
高野山大学、(社) TERA・KO-YA
- ・協力：環境省、高野町、金剛峯寺、(社) まつりごと
- ・開催日：7月11日（土）14時～17時半、7月12日（日）9時～12時
- ・場所：高野山大学 黎明館

【プログラム・スケジュール】 (*あくまで現時点のものです。)

7月11日(土)

- 開催挨拶(14時):高野山大学 藤田光寛学長
- 基調講演(～16時)
 - ・『つなげよう、支えよう森里川海』プロジェクトの意義
環境省審議官 中井徳太郎
 - ・「森里海の繋がりによる日本再生の具体的デッサン」
NPO 森は海の恋人代表 畠山重篤
 - ・『つなげよう、支えよう森里川海』推進志民会議による国民運動展開
(社)場所文化フォーラム名誉理事、ローカルサミット事務総長 吉澤保幸
 - ・松長有慶 高野山真言宗前管長のご講話
- 休憩(16時～16時15分)
- トークイベント「森里川海の国民運動展開に必要なこと」(～17時30分)
映像提供と司会者:谷崎テトラ(放送作家)
参加者:伊勢谷友介(ビデオメッセージ)、石田秀輝(東北大名誉教授)、
井上恭介(NHK エンタープライズ・エグゼクティブプロデューサー)、
八幡暁(海洋冒険家)、森勇介(大阪大教授)、
平野嘉也(和歌山県高野町長)
- 懇親・交流会(18時半～20時) 高野山大学食堂

7月12日(日)

- 各地からの活動報告等(トークリレー)(9時～10時30分)
 - ① 高野山・紀州からのメッセージ
 - ② 北海道・東北からのメッセージ
 - ③ 北信越からのメッセージ
 - ④ 関東からのメッセージ
 - ⑤ 中四国からのメッセージ
 - ⑥ 九州からのメッセージ
- 休憩(10時30分～10時40分)
- 環境省からの「中間とりまとめ」報告(10時40分～11時)
- パネルディスカッション「森里川海協議会のあり方を巡って」(～11時50分)
パネリスト:武内和彦(国連大上級副学長)、中井徳太郎(環境省審議官)、
田中克(京大名誉教授)、谷口正次(環境・資源ジャーナリスト)、
田中幹夫(富山県南砺市長)、平野嘉也(和歌山県高野町長)
コーディネーター:吉澤保幸
- 第一回高野山会議からのメッセージ(11時50分～12時)
- 閉会

【お問い合わせ・申し込み先】 <http://goo.gl/forms/UFzJAKbLR4>